

別記第3号様式

平成15年度事後評価調査

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	1	研究課題名	戦後初期におけるアイヌの地域活動に関する歴史的調査研究					
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析	研究期間	13年度～14年度
共同研究機関 (協力機関)						全所要額 (千円)	(一財)	242 242
<p><b>研究の概要</b></p> <p><b>研究背景</b> アイヌの歴史の中で、戦後間もない時期(1945～50年頃)は、(社)北海道アイヌ協会(現北海道ウタリ協会)の発足などの様々な活動が活発に展開した時期とされている。しかし現在までの研究は、協会のいわゆる本部レベルの活動を主な対象としており、用いられる資料も同協会の機関誌や当時発行された『アイヌ新聞』等に限定されている。人々の生活とより密接な関わりを持って展開したと考えられる各地域での活動のようすは、これまではあまり明らかにされてこなかった。</p> <p><b>研究目的</b> 戦後初期のアイヌの活動について、アイヌ協会の支部などの地域の活動を主な対象として聞き取り調査や関係する文献の調査を行うことによって当時の実態を明らかにするとともに、関係する基礎資料の収集・整備を図る。</p> <p><b>研究内容</b> 当時地域の活動を担ったか、または参加した方(浦河支部及び静内支部)から聞き取り調査を行うとともに、これらの地域を中心とした関係文献資料を調査・収集し、アイヌ民族の現代史・生活史の一端を明らかにした。</p> <p><b>研究実績</b> 聞き取り調査 : 関係する聞き取り調査の録音資料(録音時間合計約5時間)について内容整理・確認を行った。 文献資料の調査収集 : 道内各地の図書館等を調査し、当時の新聞記事を中心に関係資料約50件を収集した。 成果の取りまとめ : 録音資料のうち浦河支部の活動を担った方の体験記録について、その内容と関係資料を併せて取りまとめた。</p>								
<p><b>研究の成果</b></p> <p>具体的な成果及び研究目標の達成度 ・聞き取り記録については、関係文献調査による参考資料と併せて取りまとめた。 ・記録は北海道アイヌ協会の浦河支部という一つの地域・支部に関するものであるが、支部の会計書記という活動の基盤を担った人の体験であったことにより、従来のアイヌ史記述がアイヌ協会の理事・理事長・支部長といった層の体験記録を資料としてきたことに比べ、より実際の活動に即した論点や内容を含んだものとなった。 ・戦後初期の新聞・雑誌等の資料を調査し、関係資料を収集した。ここでは、従来のアイヌ史記述には見られない新たな基礎的資料を多く得ることができた。</p> <p>研究期間・経費の妥当性 期間・経費は、妥当であった。資料収集についてはその前後の時期について今後継続して取り組む必要があるが、それは今後の新たな課題の展開の中で位置付けることが適切である。</p> <p>他機関との連携 浦河町立郷土博物館及び(社)北海道ウタリ協会の協力を得た。</p> <p>新たな展開に向けた課題 戦後のアイヌ史の基礎的資料については依然として未調査の部分が多いことから、今後引き続きこのような基礎的な調査研究課題を継続する必要がある。</p>								
<p><b>成果の活用策</b></p> <p>活用される分野 本研究課題の成果は、アイヌ史及び地域史の基礎的資料として活用される。</p> <p>具体的な活用方策、新たな展開策 ・アイヌ史・地域史のそれぞれにおいて、具体的な歴史書編纂等に活用できる。 ・新聞・雑誌等の文献調査の成果は、活動史・地域史資料作成の手引きや参照資料となり得る。 ・文献等の基礎的資料収集の成果は、現在継続中の他の研究課題において収集した文献資料と併せ、近現代のアイヌの歴史・文化に関する文献資料データベースや資料集の構築につなげることができる。このようなデータベース、資料集の公開・公開はアイヌ史の調査研究・学習等に寄与することが期待できる。</p> <p>研究成果の普及 ・アイヌ協会浦河支部の活動に関する聞き取り記録は、「北海道アイヌ協会浦河支部創立当時のこと：富葉愛吉」として、当センター研究紀要第9号(2003年3月刊行)に掲載 ・新聞・雑誌記事は、当センターの文献資料収集の一環としてデータ化</p>								
【自己評価】	【意見】							
Ⓐ・B・C	<p>これまであまり明らかにされてこなかった地域活動に視点をのいた当該課題は、従来のアイヌ史記述には見られない基礎的資料を多く得ることができるなどの成果をあげており、アイヌ史の学習や研究に大きく寄与することが期待できる貴重な研究であった。</p> <p>(追跡評価の必要性 有(無))</p>							
【総合評価】	【意見】							
A・B・C	<p>これまであまり研究されていなかった部分に視点をのいた研究で、アイヌ史の基礎的資料としても有用な研究であり、一定の研究成果が得られている。</p> <p>また、今後は静内支部についての調査を更に進めるなど成果の活用・普及に向けての研究展開が必要であることから追跡評価は実施しない。</p> <p>(追跡評価の必要性 有(無))</p>							

(A) 目標を達成し、十分な研究成果が得られている  
(B) 目標を概ね達成し、一定の研究成果が得られている  
(C) 目標の達成度が低く、十分な研究成果が得られていない

(a) 極めて高い、適切である  
(b) 高い、概ね適切である  
(c) 低い、改善の余地がある